

# いわて平泉米だより

令和8年5月号



## 田植え後の管理

### ○こまめな水管理を

田植え後、苗が活着するまでは、植え傷みにより根の呼吸能力が低下しています。その影響を軽減するとともに、活着を促し除草剤の効果を高めるため、深水で管理しましょう。活着後は水温および地温の上昇と分げつ促進のため、好天の時には2～3センチの浅水に、気温が15℃以下となる低温や、強風の時には深水にするなど、こまめな水管理に努めましょう。

### ○取り置き苗は早期に処分

取り置き苗は、いもち病菌の発生源となります。田植え後、植え直しが済んだら、取り置き苗は直ちに処分しましょう。いもち病菌を葉に感染させないことが、穂いもちを防ぐポイントです。

### ○カメムシ防除のために草刈りを行いましょう

カメムシの成虫は年2～3回発生します。6月上旬の草刈りはカメムシの1回目の発生量を抑制し、その後の発生量も少なくする効果があります。地域で一斉に行うとより効果的ですので、計画的に実施しましょう。

### ※注意

農薬使用時はラベルをよく読み、散布量や希釈倍率を間違えないように注意しましょう。

